



ミラ・クロフォード：ホテルのように自由を求めて

palta piccolo

THE ADMIRAL'S LEGACY



アメリカの港町サンディエゴ。病弱で部屋に閉じこもりがちだった6歳のミラは、窓の外を眺めながら孤独を感じていました。そんな彼女の小さな手を、米海軍中將である父が力強く握りしめ、心の中に眠る真の強さを信じるよう語りかけます。



夕暮れ時、父の指導のもとでヌンチャクの稽古に励むミラの姿がありました。金具が夕闇に反射して舞う様子は、まるで不器用なホタルの光のように美しく、彼女の体には少しずつ確かな力が宿り始めていました。



15歳になったミラは、沖縄で開催される琉球空手大会の予選会場へと全力で走っていました。到着に着替え、ハンバーガーを頬張りながら焦る彼女の姿には、かつての弱々しさは微塵もなく、自由で活発な少女へと成長していました。



予選会場の受付で、ミラは愛用の櫟木製ヌンチャクを検査に出しました。使い込まれた道具を「安モンだよ」と笑いながらも大切にする彼女の瞳には、これから始まる真剣勝負への鋭い闘志が宿っていました。



予選一回戦、自分より遥かに大きな相手を前に、ミラは深く呼吸をしてヌンチャクを構えました。審判の合図と共に放たれた一撃は、美しい弧を描いてホタルのように舞い、一瞬で相手を圧倒して会場を驚かせました。



A Joyful Respite in Okiaoma

試合の合間、ミラは新しくできた友人たちと沖縄の街へ繰り出し、名物のソーキそばを楽しみました。賑やかな街の灯りの中で笑い合うひときは、厳しい修行を続けてきた彼女にとって心安らぐ休息となりました。



ホテルへの帰り道、ミラは一人の少女が巨漢の軍人たちを鮮やかな投げ技で制圧する場面を目撃します。その少女、内藤飛鳥から放たれる圧倒的な実力と殺気を感じ取り、ミラは決勝での再会を予感して武者震いしました。



ついに迎えた決勝戦。ミラは桁外れの跳躍力で宙を舞い、飛鳥の視界から消えるトリッキーな攻撃を仕掛けます。しかし飛鳥もまた超一流の使い手であり、重い衝撃をヌンチャクで受け止め、二人の戦いは一進一退の死闘となりました。

SEVEN STARS: ASCENDING IMPERIAL DRAGON**MIRA WINS!**

残り時間が少なくなった極限状態の中、ミラは集中力を高め、未完成の奥義「七星・昇り皇龍」を放ちました。閃光のような龍が昇り上がる劇的な一撃が飛鳥を捉え、会場が熱狂に包まれる中でミラの優勝が決定しました。



サンディエゴの空港で、ミラは待ち構えていた父エリックに再会し、誇らしげに優勝トロフィーを見せました。いたずらっぽく海軍式の敬礼を送りながら、自由を掴み取ったホタルのように、彼女は輝かしい未来へと歩み出します。